

表5 大学における婦人研究者の推移

(1) 4年制大学

年次	計	学長・副学長	教授	助教授	講師	助手
1951 総数	2,654.5	210	7,198	7,276	3,935	7,936
うち婦人	1,245 (4.7%)	2 (1.0%)	88 (1.2%)	257 (3.5%)	311 (7.9%)	587 (7.4%)
1955 総数	38,010	218	9,922	9,610	5,545	12,715
うち婦人	1,979 (5.2%)	6 (2.8%)	191 (1.9%)	341 (3.5%)	449 (8.1%)	992 (7.8%)
1960 総数	44,434	241	12,266	11,372	6,577	13,978
うち婦人	2,693 (6.1%)	8 (3.3%)	267 (2.2%)	430 (3.8%)	585 (8.9%)	1,403 (10.0%)
1965 総数	57,445	313	17,146	13,873	8,174	17,939
うち婦人	4,233 (7.4%)	19 (6.1%)	403 (2.4%)	609 (4.4%)	809 (9.9%)	2,393 (13.3%)
1970 総数	76,275	346	23,571	17,312	10,642	24,404
うち婦人	6,454 (8.5%)	24 (6.9%)	624 (2.6%)	990 (5.8%)	1,163 (10.9%)	3,653 (15.1%)
1974 総数	86,576	450	27,475	19,470	11,920	27,261
うち婦人	7,192 (8.3%)	25 (5.6%)	806 (2.9%)	1,162 (6.0%)	1,267 (10.6%)	3,934 (14.4%)

(2) 短期大学

年次	計	学長・副学長	教授	助教授	講師	助手
1951 総数	2,883	106	865	829	803	280
うち婦人	776 (26.9%)	16 (15.1%)	106 (12.3%)	228 (27.5%)	261 (32.5%)	165 (59.0%)
1955 総数	5,505	190	1,432	1,309	1,795	779
うち婦人	1,675 (30.4%)	34 (18.0%)	194 (13.5%)	379 (29.0%)	584 (32.5%)	484 (62.1%)
1960 総数	6,394	188	1,743	1,335	2,053	1,075
うち婦人	2,251 (35.2%)	40 (21.3%)	240 (13.8%)	403 (30.2%)	814 (39.6%)	754 (70.1%)
1965 総数	9,321	224	2,945	1,811	2,716	1,625
うち婦人	3,555 (38.1%)	52 (23.2%)	469 (15.9%)	604 (33.3%)	1,155 (42.5%)	1,275 (78.5%)
1970 総数	15,320	355	5,071	2,848	4,404	2,642
うち婦人	6,062 (39.6%)	67 (18.9%)	818 (16.1%)	1,015 (35.6%)	2,053 (46.6%)	2,109 (79.8%)
1974 総数	15,169	462	5,315	3,426	3,922	2,044
うち婦人	5,659 (37.3%)	84 (18.2%)	908 (17.1%)	1,271 (37.1%)	1,860 (47.4%)	1,536 (75.1%)

文部省「学校基本調査」

戦前の大学・高等専門学校における婦人数員数は微々たるものであった(参考表)。大学教員への婦人の進出は戦後に始まるがそれでも1951年において、旧制大学では、私立大学の助教授以下に約160名がいたにすぎず、事実上新制大学の設置に始るとみてよい。

その後、4年制大学、短期大学ともに、数的にも比率的にも徐々に婦人研究者は増加してきたが、1970年代に入って増勢は打ち止めを示しはじめ、4年制大学では全体の比率で微減、短期大学では研究者数、比率ともに低下傾向になっている。

短期大学では全教員数も減少傾向にあって、そのしおよせが婦人にかかっていることが認められる。

(参考) 1941年の女高師、女子高専における婦人数員数

	官立 女高師 2校	専 門 学 校		
		官立 8校	公立 9校	私立 109校
専任 総数	119	577	210	7,091
うち婦人	38	51	43	569
兼任 総数	-	-	62	219
うち婦人	-	-	15	0

文部省第69年報(昭和16年) 外国人を除く
女高師は1940年の数